

謹賀新年

昨年は、皆様の温かいご支援をいただき
ありがとうございました。

本年は、社員一同初心に立ち返り潤滑剤
の知識集団を目指して頑張ります。



「愛しき人たち」

震災後私どもが避難させていた
いただいた最初の地は、福島第一原
発より六十キロ離れた娘の嫁ぎ
先國魂神社である。

今から約千二百年前の大同元
年の創建とされるのだから、勿来
の関の開設より古いのでしよう。

翌日の朝、ラジオ体操を終えた
わたしに宮司のお義父さんが

『おはようございます。体操です
か、健康的ですね』

と、声をかけて自転車で出かける
様子だった。

『お義父さん、お出かけですか』
『ええ、今日神社で使う笹を取り
に行つてきます』

『わたしも行きましょう』
『そうですか、じゃあ自転車で一
緒に行きましょうか』

私どもは、この日の朝が原発の
爆発により放射線量が一番高い
ことも知らずに、田園の中を颯爽
と快適にペダルを踏んだ。

山に入り目的の笹を取り終え
る頃には、体も温まっていた。

『四世代で囲む食卓』

湯上り後、今日一日の無事に感
謝しながら四方山話に花を咲か
せ、お義父さんと酌み交わすビー
ルの味は、格別なものでした。

◇

今日も、前日宿泊した隣県の湯
ノ澤鉱泉で購入した地ビールを
手土産に、神社を訪ねた。

神社では新年を迎える準備で
忙しく、社務所ではお義父さんが
護符の宛名書きに追われていた。

『わたしも、何かお手伝いできる
ことありませんか』

『ちょうど良かった。これから榊
と南天を取りに行くところまし
た。またお願いできますか』

『ええ、一緒に行きましょう』
私どもは山に分け入り、取った
榊と分けていただいた南天を軽
四輪に積んで、神社に戻った。

夕方には、おばあさん、宮司ご
夫妻、娘夫婦それに育ち盛りの孫
たち三人と私たちが加わって、妻
の手料理に歓声をあげ持ってきた
地ビールを味わった。

四世代が囲む食卓は、アットホ
ームで日本の原風景なんですね。

☆ あとがき ☆



昨年、(株)大林組様のご好意で横浜環状線シールドトンネルの工事現場を
息子と見学させていただくことが出来ました。地下 30mまで降りて目にし
た巨大な空間と上下2本の太いトンネルには圧倒されました。

掘削された土砂を地上に上げるベルトコンベアーの軸受けに、私どもの
グリースをご採用いただき紙上より厚く御礼申し上げます。